

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価	総合評価		
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1)教職員研修の充実を図ること (2)教育環境を整え、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりを推進する。 (3)広報活動を充実させ、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。 (下位組織レベル) ①各種教職員研修の充実 ①協働精神に満ちた教職員の組織づくり ①教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成 ②特色ある学校づくりの推進 ②学校開放・公開、地域貢献ボランティア活動やホームページの充実 学校行事の公開等、積極的な情報発信の推進	評価指標 ①-1 各種教職員研修の実施 【各学期 3回以上】 ①-2 教員組織としての連携度合いを図るアンケートの実施 【充実度：90%以上】 ①-3 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教員組織としての意思統一を図る。 【情報セキュリティ研修：年3回以上】	評価指標の達成度 ①-1 職員研修等 【年間 13回実施】 ①-2 共通理解・協力体制の充実 【教職員間の充実度 91.2%】 ①-3 定期的な情報セキュリティに関する啓発研修を実施、教員の意識向上を図る。 【情報セキュリティ研修：年間5回実施】	評定 A B A	I)地域連携を推進する上で神山分校としての方向性をしっかりと持ち、連携活動により町と分校の双方にとって相乗効果を生むような取組にしてほしい。 ①本年度より分校の将来像を見据えた教育の在り方について検討を進めている。(学科再編、教育課程の見直し、特色ある教育活動の充実等) (所 見) ・教職員間の協力・相互理解等が十分に図れるようになり、仕事しやすい職場環境が構築できつつあるものの、業務での偏りが見られるなど改善の余地もある。 ・各種の教職員研修において計画的に工夫をもった研修が実施されるなど、本校の教育実践の中で活かされている。 ・つなぐ公社を中心とし、より具体的な地域連携プログラムを計画・実践していくことで学校でのキャリア教育推進につながった。 ・有償型の地域貢献活動「孫の手プロジェクト」を実施することで、生徒たちの地域理解も深まり、さらに地域に根ざした実践活動へと進展させることができた。 ・学校からの案内文書やホームページ等で行事や学校の様子を保護者に伝えることができた。(保護者理解度：78.5%) ・体験入学での生徒の満足度は高いものの、進学希望には反映されていない面が多々あり今後もあらゆる機会を捉え、本校の取組等を情報発信していく必要がある。	○ 年度末にネット環境の整備が行われ、校内用並びに校外用の分離が確立し、情報セキュリティポリシーの遵守の更なる徹底を図る。 ○ 各種の教職員研修の実施により教職員の資質向上を図るとともに、組織としての共通理解を進める機会として活用する。 ○ 継続的に地域に根ざした活動等を推進する上で、生徒を前面に出した取組を検討するとともに生徒の事前理解を促すためのサポート体制の構築を図る。 ○ ホームページの運営に関しては、学校全体に目を向け、リアルタイムに情報発信ができるようにするとともに保護者や地域、学校とのネットワーク構築に向け取り組む。
		②-1 地域貢献活動の実施 【年間 6回以上】 ②-2 環境保全活動の実施 【年間 5回以上】	②-1 孫の手プロジェクトの実施 【年間5回、生徒参加率 23.5%】 【充実度：52.6%、継続率：57.9%】 ②-2 【アドプト事業 3回実施】 【希少植物の保護活動 2回実施】 【河川の環境調査 8月18日実施】	評定 B		
		③-1 学校ホームページの更新並びにアクセス数の増加【年間 1万件以上】 ③-2 体験入学における中学生の満足度の向上 (保護者を含む) 【満足度：80%以上】	③-3 地域連携活動報告の充実 【学校ホームページ更新 20回】 【アクセス数：28,500件超(25%増)】 ③-2 中学生体験入学参加者17名 【中学生満足度 88.2%】 【農業科への進学希望率 17.6%】	評定 A		
		活動計画 ①-1 コンプライアンス、特別支援教育などの研修会を実施する。 ①-2 コンピュータ・メインの共有フォルダを活用し、校務の効率化を図る。 ①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、教職員間の共通理解を深める。 ①-4 情報セキュリティポリシーを遵守し、情報漏洩防止の徹底を図る。	活動計画の実施状況 ①-1 人権教育、コンプライアンス、AED講習また全体での起震車等を用いた避難体験実施 ①-2 ITCを活用した授業展開が活発化するなどITC教育が推進された。 ①-3 「つなぎ・つながる」を目標に教職員間の協力・協調体制が深まった。 ①-4 外部への持出・持込をチェックするため記録簿への記入の徹底が図れた。			
	②-1 生徒が主体となった地域連携を推進する。 ②-2 農業に関する専門教育を通じたボランティア活動を実施する。	②-1 つなぐ公社を中心に地域連携プログラムが計画・準備され、より効率的な地域連携が可能となった。 [古民家再生、フード・ハブ、集合住宅緑地化] ②-2 生徒の学習の成果等を披露し、地域貢献活動へとつなげる「孫の手プロジェクト」を夏季休業中(5日間)4軒で実施した。				
	③-1 保護者や地域に本校の特色や学習活動などを積極的かつリアルタイムに情報発信できるようホームページの更新・充実を図る。 ③-2 体験入学において、本校の特色ある学習内容に関する講座を開設実施する。	③-1 昨年度に増して、季節毎の授業・実習風景をタイムリーに紹介し普段、学校での生徒の様子がわかるようホームページで発信した。 ③-2 資格取得に注目した本校の教育内容を体験してもらった。 [造園土木科：造園技能検定、生活科：保育技術 検定] (中学生 17名、保護者 14名)				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法	
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評定	総合評価			
2 確かな学力の育成	(全体レベル) (1)基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 (2)個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストを育成する。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上に向けた取り組み ①学校関係者評価アンケートの実施 ①図書室利用のオリエンテーションを開催する。 ①図書室の活用率の向上 ②各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上 ②体験的・実践的な農業教育の推進	評価指標 ①-1 基礎学力の向上 【漢字・計算・英単語テストで、各クラスの平均点58点以上】 ①-2 基礎学力の定着 【漢字・計算・英単語テストで、成績優秀者延べ45人以上】 ①-3 学年末での欠点科目数の減少 【前年度比 20%減少】 ①-4 図書室の1人あたりの利用回数の増加 【年間 20回以上】 ①-5 読書率の向上 【平均貸出冊数1人当たり 2冊以上】 ①-6 図書室だよりの発行 【年間 3回以上】 ①-7 読み聞かせ会の実施 【年間 3回以上】	評価指標の達成度 ①-1 クラス平均58点以上 [2クラス] 1L (51, 0) 2L (49, 8) 3L (58, 2) 1D (63, 5) 2D (46, 7) 3D (40, 7) 【達成率33, 3%】 ①-2 漢字・計算・英単語テスト 【成績優秀者延べ39人】 【達成率87, 7%】 ①-3 ①-4 図書室利用回数 【16回/人 達成率80%】 ①-5 平均貸出冊数1人当たり 【2冊 達成率100%】 ①-6 図書室だよりの発行 【3回 達成率100%】 ①-7 読み聞かせ会の実施 【3回 達成率100%】	E B B A A A	B	I)学力の向上、定着についてはなかなか計画的に進まない面が多く難しいことである。特に学力だけで評価するのではなく、生徒の様々な側面を踏まえた分校独自の評価の仕方を見出してほしい。 ①資格取得や地域連携などによる校外での活動を通して、専門的知識の向上は基より自主性や行動力の育成を図っている。また、これら活動の中での成功体験により自信とともに自尊心を育み生きる力に繋げてほしいと願っている。	○ 基礎学力の向上と定着については、小テストに対する意識づけとモチベーションの維持が課題である。特に、2年生で中だるみの傾向が現れるので、意識の向上を図りたい。 ○ 読書に対する興味や関心は、落ち着いた学校生活や基礎学力の向上においても重要な役割を担うため、引き続き意識向上に努める。 ○ 資格の取得に関しては、数年前より重点的に取り組んでいるが、近年、造園技能検定の合格率が下降傾向にあるものの、練習時間は十分確保できているので、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫やモチベーションを高める工夫が必要である。	
		資格取得 【造園技能検定3級、合格率75%】 【園芸装飾検定3級、合格率75%】 【危険物取扱者資格、合格者3名以上】	資格取得 【造園技能検定3級：受験者数20：合格者数9：合格率45%】 【園芸装飾検定3級：受験者数8：合格者数7：合格率88%】 【危険物取扱者資格：合格者0名】	D				(所見) ・評価指標基礎学力の向上では、目標達成が6クラス中2クラスに留まった。 ・評価指標基礎学力の定着では、概ね目標が達成できた。また、数字には出ていないが、後少しで成績優秀者となれる生徒も5名いた。 ・評価指標基図書室の利用促進と読書率の向上では、概ね目標が達成できた。
		活動計画 ①-1 ホームルームの時間の活用など、教科以外での学習時間を確保する。 ①-2 ホームルーム活動を利用して図書室で本を借りる時間を作り、読書量を増やす。 ①-3 月10回の予定で開室し、図書室の活用を図る。 ①-4 購入図書案内を定期的に行う。 ①-5 図書委員会を中心として、学期に1回程度の読み聞かせを行うなかで読書を推進する。	活動計画の実施状況 ①-1 教科外での学習時間確保 [1,2年生：年間33回3年生：年間27回] ①-2 各授業での図書室利用数 5回/月 ①-3 購入図書案内 3回 ①-4 図書室の開室回数 月10回 ①-5 読み書かせ会実施回数 3回					・評価指標資格取得では、造園技能検定と危険物取扱者資格の達成率が悪く、次年度以降の課題となった。また、小型車両建設機械運転資格に18名が希望するなど、全体的な資格取得に対する意識は高い。
②-1 検定全員合格を目指し教科指導や時間外授業で取得を図る。 ②-2 担当教員を配置し、進捗状況を農場長が把握する。 ②-3 産学官連携事業で講師を依頼し積極的に体験型学習を推進していく。 ②-4 資格が将来の仕事や日常生活などにおいて役立つことを認識させる。	②-1 専門科目の授業を中心に、農場当番や放課後間を活用した。 ②-2 各資格に担当教員を配置し、農場長への報告を行った。 ②-3 体験学習、見学研修、講師派遣など年間5回の連携事業を実施した。 ②-4 造園・園芸装飾技能検定、危険物取扱者資格、特別講習(伐木、刈払機、小型車両建設機械)を実施延人数105人がチャレンジした。							

【備考】評価における「評定」の基準】A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評定 総合評価		
3 生徒指導の徹底	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 基本的生活習慣を確立を図り、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。</p> <p>(2) 教職員の共通理解を図り、保護者、地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。</p> <p>(3) 教職員間での情報の共有化を推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 基本的生活習慣の確立 ① よりよく生きるための資質を育成(道徳教育) ② 保護者、地域社会、関係機関との連携を密にした指導の実践 ③ 教職員間での情報の共有化並びに連携強化</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 頭髪・服装検査の実施並びに違反者への改善指導の実施 【違反者率：5%未満】</p> <p>①-2 全校集会の実施 【各学期 2回以上】</p> <p>①-3 SNSの使用並びに公共機関利用におけるマナーアップ指導の実施 【年間 4回以上】</p> <hr/> <p>②-1 教員組織や保護者との連携度を図るアンケートの実施 【充実度：90%以上】</p> <hr/> <p>③-1 教職員間での教育相談体制を整える。</p> <p>③-2 生徒指導に関する教職員研修の実施 【年間 3回以上】</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 毎月20日の校門指導を実施し、生徒の指導に役立てる。</p> <p>①-2 状況に応じて全校集会を実施し、全職員で支援、指導を行う。</p> <hr/> <p>②-1 P T A総会や保護者面談等において、教職員と保護者の共通理解を図るため生徒指導の情報交換を行う。</p> <hr/> <p>③-1 生徒の教育相談に使える場所を作り、いつでも相談できるような環境を整える。</p> <p>③-2 研修会や研究発表大会への参加を図り、得た知識等を校内人権研修で他の教職員に還元する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 毎月1回以上の実施済み。違反者への指導は継続中 【違反者率：8.3%】</p> <p>①-2 全校集会は計画通りに実施され状況に応じて対応できた。</p> <p>①-3 携帯電話のマナーアップ教室 【1学期：1回実施】</p> <hr/> <p>②-1 教員組織や保護者との連携推進による対応。 【充実度：92.6%】</p> <hr/> <p>③-1 教職員全体で相談体制を整えることができた。</p> <p>③-2 生徒指導研修については、徳島地区生指協や関係機関と連携により得た情報等を職員朝礼や特設の会議で報告する中で情報の共有を図り、活かすことができた。 【年間：1回実施】</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 毎月20日の計画で校門指導を実施し、生徒指導に役立てることができた。</p> <p>①-2 職員組織が一丸となり支援・指導に取り組めた。また、状況に応じ全校集会も実施できた。</p> <hr/> <p>②-1 P T A総会や保護者面談等において、教職員と保護者の共通理解を図るため生徒指導に関する情報交換が実施できた。</p> <hr/> <p>③-1 教育相談室も設置されており、状況に応じて効率よく活用されている。</p> <p>③-2 生徒指導関係の研修会や研究発表大会への出席は計画通り実施できている。また、得た知識や情報等は、職員会議等を利用して、全教職員に周知徹底を図っている。</p>	<p>評定 B</p> <hr/> <p>評定 A</p> <hr/> <p>評定 B</p>	<p>総合評価 B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪並びに服装についてはほとんどの生徒が校則を守り、身だしなみを整えることができているが、一部の女子生徒にスカート丈の短いものを着用している現状がある。粘り強く指導することで指導には従うが、継続が難しい。今後とも、保護者、学校が協力して、これからも粘り強く指導を実施したい。 ・生徒の問題行動は3件と少なく、指導事例もほぼないが油断することなく、保護者、学校、関係機関が協力して、生徒の健全育成に努めたい。 ・活動計画の実施状況では、校門指導、全校集会、P T A総会、保護者面談等、全教職員の協力により、ほぼ計画通り実施できているものの、今後は家庭環境や生活実態の多様化により、効果的な指導方法や生徒理解に努める必要がある。 	<p>I)交通安全に関する指導等はきめ細かな指導体制が構築できていると思うが、社会人としてのマナーや礼儀作法も含めた生徒指導の充実を図ってほしい。</p> <p>①学校としても「挨拶の励行」など積極的な取組を推進する中で関係機関とも連携を図り、より効果的に取り組みたい。また、地域連携など校外でのアクティブラーニングを取り入れた活動の中からも指導へと繋げていきたいと考えている。</p> <p>○ 全校生徒の83%がバスで通学しており、公共交通機関の利用の仕方や乗車マナー等の指導を継続して定期的に行う必要がある。また、原付通学生は10名未満で少数であるが、軽微な事故も起こっており、より安全運転に心がけるよう指導を徹底する必要がある。</p> <p>○ 町外から登校する生徒が増える中で、生活環境や家庭環境も多様化する現状を踏まえ、教員組織や保護者との連携推進をさらに進める必要がある。</p>

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評定	総合評価		
4 人権教育並びに 特別支援教育の推進	(全体レベル) (1) 普遍的・個別的な観点から学校 教育全体をと おして人権教育を推進す る。 (2) 自他を大切にす心や 態度を育成する。 (3) 特別支援教育を推進し、 個々に応じた支援を行 う。 (下位組織レベル) ①人権学習ホームルーム 活動の充実 ②人権啓発活動の充実 ②人権教育教職員研修の 充実 ③特別支援体制の確立及 び関係機関との連携推 進	評価指標 ①-1 人権学習ホームルーム活動において、 体験的参加型学習の実施 【年間 3回以上】 ①-2 人権意識に関するアンケートの実施 【人権意識の日常生活での活用 割合：75%以上】	評価指標の達成度 ①-1 体験的参加型の人権学習ホ ームルーム活動を実施した。 【各ホームルーム年間 3・4回実施】 ①-2 人権意識に関するアンケートを 実施した。 【他者への思いやりをもって生 活していると答えた割合：83%】	B	B	I) 学校生活の充実並 びに満足感を向上さ せるためには生徒の 自尊感情を高めてい く必要があるのでは ないか。 ①生徒が学習活動の 中での成功体験によ り着実に会得するこ とができると考える。 また、地域連携等の 校外活動の充実によ り更に効果的に自尊 感情を高めていける と信じ、積極的な地 域連携を推進してい きたい。 II) 特別支援教育の充 実に向けた具体的な 取組はどうなってい るのか。 ①特別支援教育に関 する職員研修会など を効率的に実施し、 全教職員での共通理 解を進める。また、 関係機関との連携協 力を密にし、充実し た学校生活や進路選 択が行えるように配 慮する他、支援員等 の配置要請も検討し ている。	○ 教職員が少なく、 校務分掌をいくつ も掛け持ちをして おり、時間的な余 裕は少ない。その 中でどのように悩 みや問題を抱える 生徒に関わってい くか、年度当初に 共通理解を図り、 協力体制を築くこ とが課題である。 ○ ほぼすべての生徒 がSNSを利用す現状 において、人間関係 のトラブルを抱える 生徒が増えている。 今後の人権教育にお いてSNSに関する内 容のより一層の充実 を図る。 ○ 次年度も人権教育 及び特別支援教育に 関する研修や生徒の 情報交換などを実施 していく。 ○ 生徒の中には自分 の考えをうまく伝え ることができない者 もいる。支援が必要 な生徒には教職員全 体で関わる体制の強 化を図る。
		②-1 保護者への人権啓発の機会を 図る。 【年間 2回以上】 ②-2 人権教育関連アンケートの実施 【指導力向上に役立割合：75%以上】	②-1 人権啓発に向けた取組 【年間 2回実施】 ②-2 人権教育に関するアンケートは、 3月中旬に実施予定である。	B	(所 見) ・全ての教職員が生徒全員に 関わることを通して、人権 教育や特別支援教育の推進 に取り組んだ。時間的な余 裕は少ないが、機会を捉え て今後も推進していく。 ・2学年の修学旅行では、ア イヌ文化について現地で学 ぶ機会を設けるなど、学校 以外でも人権問題に触れる 機会を設けた。 ・教職員人権研修ではフィール ドワークを取り入れた合同地域 研修を実施し、教職員の人 権意識向上に繋げることが できた。 ・少人数の中での人間関係に 悩む生徒や発達障がいを抱 える生徒が多いため、教職 員の中での情報交換や校内 研修を行っていきたい。		
		③-1 担任、特別支援教育コーディネ ーターが協力して、教育相 談体制を整える。 ③-2 教職員の特別支援教育に関す る知識・意識の向上を図る。 【理解度・満足度 80%以上】	③-1 問題を抱える生徒に対し て教職員全員で関わり、 個別面談や家庭訪問等を行 った。 ③-2 12月に教職員対象の特別 支援教育研修会を実施し た。 【実施回数：1回】	B			
		活動計画 ①-1 ロールプレイングや事例検討 等の体験的活動を行う。 ①-2 生徒の実態に即した学習内容 を設定し、普遍的な視点と個 別的な視点をとらえた学習を 行う。 ②-1 P T A 総会や神農祭等におい て人権啓発を行う。 ②-2 教職員の研修会や研究発表大 会への参加を図り、得た知識 等を他の教職員に還元する。 ③-1 教育相談に使える場所を作り、 生徒が気軽に相談できるよ うな環境を整える。 ③-2 研修会で学んだことをもとに、 教職員間で共通理解を図って 支援が必要な生徒に対応する。	活動計画の実施状況 ①-1 アクショントレーニングや就職差別に関す る事例検討を実施した。 ①-2 アンケートや個人面談等を通し て生徒の実態を把握した上で、 人権学習ホームルーム活動を実 施した。 ②-1 P T A 総会時に人権教育の啓発 を図った他、家庭訪問や三者面 談等でも啓発に取り組んだ。 ②-2 地域研修や人権フォーラム、研究大会 等に多くの教員が参加した。 ③-1 ホームルーム活動などを利用し て、生徒が気軽に相談できるよ うな体制を作った。 ③-2 外部の研修会で学んだことをも とに、問題を抱える生徒への対 応の仕方を検討した。				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

		自 己 評 価				学校関係者評価	次年度の課題と 今後の改善方法
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見		
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
5 進路指導の充実	(全体レベル) (1)望ましい勤労観・職業観の育成とともに自らの将来設計の構築を図る。 (2)進路情報の的確な提供による進路指導の充実を徹底する。 (3)進路先の確保並びに定着化のための指導体制の充実に努める。 (下位組織レベル) ①望ましい勤労観・職業観の育成のためガイダンス・進路相談等の充実 ②生徒理解を深め個に応じたきめ細やかな進路指導の徹底 ③個々の希望に応じた進路開拓の推進 ③特別支援を必要とする生徒への対応	①-1 進路説明会を各学年で適期に実施する。【各学年 1回以上】 ①-2 入学時から自分の進路に関する目的意識を持たせる。【長期欠席者 8%以下】 ②-1 オープンスクールや企業に関する情報を生徒に周知する。【オープンスクール参加率：90%以上】 ②-2 個別指導の徹底や出題問題の提供などを積極的に行う。【過去問等の情報提供：100%】 ③-1 個人面談・三者面談を効果的に実施する。【面談実施率：100%】 ③-2 会社訪問や学校説明会への参加を積極的に実施する。【希望企業への訪問：2回以上】 ③-3 生徒の状況に応じた進路指導を実践する。【関係機関との連携：90%以上】	①-1 進路説明会については3年生はすでに実施、2年生は1月21日で準備中である。 ①-2 折に触れ進路の状況を1・2年生に伝えている。 ②-1 オープンスクール参加率は100%である。また、生徒により同一校に複数回参加した。 ②-2 過去問などの提供は100%である。春先にすべて提供した。 ③-1 必要に応じて家庭訪問・電話相談なども実施した。【面談実施率：100%】 ③-2 企業訪問・学校説明会ともに当初の目標を達成している。【希望企業訪問：30回】 ③-3 生徒の状況に応じた進路指導を心がけているが、実際に進んでみないとどの程度定着するかは未確定なもの、関係機関とは十分に連携している。【関係機関との連携：92%】	B	B	I)早い段階で目的意識を明確にし、希望する進路へと確実に繋げるような取組を推進してほしい。 ①積極的な進路指導をする上でインターシッピング等を取り入れ、より具体性を持たせるとともに専門機関との連携をより密にした指導を今後も継続発展させ取り組んでいきたい。 ○ 進学希望者については積極的なオープンスクールへの参加が定着してきた。ただ、進学のための資金の確保など各家庭が抱える問題は相変わらずである。就職希望者については早くからの面談等で、堅実な進路決定がなされているが、定着に関しては不安がある。 ○ 進路決定に向けての最大の課題は本人・保護者の進路に対する意欲を高めること、それにはどのようなことが家庭で必要かを認識して実践するかである。学校における教育活動では限界があり、懸命な連携を図っているが、根本的な問題が解決していないケースが多く、成果がなかなか上がらない。	
		活動計画	活動計画の実施状況	A			(所 見) ・3年生の進路については96%決定しているが、まだ1名の進路が未定になっている。卒業に際して定着に向けた指導や社会人としてのマナーなどを生徒・保護者に伝えておきたいと考えている。1・2年生については今春の早期離職状況踏まえて進路決定を意識した教育を実施しているが効果のほどが確認できるにはしばらくの期間が必要である。
		①-1 進路説明会や三者面談を適宜実施する。 ①-2 教職員組織の連携を強化する。 ②-1 進路情報の提供を徹底する。 ②-2 補習体制を充実させる。 ③-1 個人・三者面談による意思確認を積極的に行う。 ③-2 職場見学やインターシッピングについても積極的に取り入れる。 ③-3 ハワークと連携してより生徒の要請や適性に応じた進路開拓を実施する。 ③-4 特別支援を要する生徒に関して、専門機関との連携を密にする。	①-1 実施回数〔説明会 1回、面談 60回以上〕 ①-2 十分に連携できている。【教職員間連携度：94.2%】 ②-1 情報提供は適宜実施した。 ②-2 個別指導で教科に依頼している。 ③-1 面談・家庭訪問・電話訪問などをよく行い、書面の提出も依頼している。 ③-2 必要に応じて実施しているが今年度は件数が少ない。 ③-3 特に早期離職者数名について4月当初より綿密な連携をした。進路開拓に関しても協力してすすめている。 ③-4 保護者・事業所・関係機関の綿密な連携のもとで斡旋中である。				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法		
		評価指標と活動計画	評価				
6 活力ある特別活動の推進	(全体レベル) (1)神農クラブ活動・ホームルーム活動・学校行事の活性化を図る。 (2)部活動の活性化を図る。 (3)地域の環境整備の活性化を図る。 (下位組織レベル) ①神農クラブ活動, ホームルーム活動の活性化 ①学校行事の活性化 ②部活動の活性化と学校リーダーの育成 ②農業クラブ活動の充実 ③自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進	評価指標 ①-1 スーパーオンリーワンハイスクール事業の実施 【企業3回以上, 県及び町3回以上】 ①-2 活動の発表会並びに満足度調査のためのアンケートの実施 【年間1回以上, 充実度: 80%以上】 ①-3 広報宣伝活動を行い神山町の活性化の一助とする。 【学校ホームページ更新 6回以上】 ①-4 校外実習や校外行事における生徒の積極的な参加を推進する。	評価指標の達成度 ①-1 企業3回以上, 県及び町3回以上実施できている。 ①-2 1月23日に実施予定である。 ①-3 イベントやプロモーションビデオづくりなどを行い, ホームページに多く掲載した。 ①-4 数多く校外行事が実施できている。	総合評価 B	I)本校の特色を持った活動が昨年度にも増して取り組んでいるようだが, その活動の中で生徒が主体性を持って取り組むための指導を充実してほしい。 ①生徒自身にしっかりと目的を理解させるとともに目標を明確にした上で継続的な活動に取り組ませる必要があり, そのためにも地域人材の活用が有効的に図れるよう計画したい。 II)2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け, 農産物のGAP〔農業生産工程管理〕が注目されているが, 本校でも積極的に活用し取り組んでほしい。 ①本校でも本年度, スダチのとくしま安 ² 農産物GAP認証を申請し, 大筋の基本認証を頂いた。更に来年度以降は, J-GAP認証を本校のスダチでめざし取り組んでいきたい。	○ 1年目となったスーパーオンリーワン・ハイスクール事業のチャレンジは, 地域と連携し神山町を活性化させる取り組みをテーマに活動してきた。報告会の時に審査委員から, もっと自分たちで計画し行動できる人財になってくださいと課題を提示された。今後, 地域や関係機関と連携し, もっと実践力を身につけていき, 来年度はスタンダード・ステージに挑戦していく。 ○ 農業クラブ活動では四国大会出場と全国大会入賞という目標が達成できなかったもので, 次年度はこの目標を達成して, 素晴らしい成績を残せるよう努力する。 ○ 本年度より取り組んだ農業技術検定は1年生全員と2年生の一部が受験した。合格率が32%という結果であった。課題としては, 検定の位置づけをどうするかで考えることに向けて改善しているところである。 ○ 安心安全な食の提供を目指し取り組んだGAPは, 果樹担当者の熱心な取り組みと管理能力の結果, 高評価を県からいただいた。今後, 引き継ぎをしっかりとしいき神山分校のスダチを全国に広げていきたい。	
		②-1 部活動入部率を向上させる。 【部活動入部率: 60%以上】 ②-2 高校総合体育大会への参加 【2競技以上】	②-1 積極的な勧誘ができた。 【部活動入部率 74.6%】 ②-2 高校総合体育大会への参加は1競技が参加した。	B			(所見) ・今年度スーパーオンリーワンハイスクール事業の指定を受け, 予算面も充実しており, 体験や見学が各学年に均等に実施することができた。また, 各企業や町のなぐ公社等の協力もあり, 生徒の交通手段や交流活動が計画的に展開することができた。 ・一方, 農業クラブ活動では, 昨年度に比べ生徒の参加率や出場種目は上回っているが, 県予選を突破できる内容とは行かなかったが, 入賞することができなかった。この反省を踏まえ, 指導者の指導体制と意識の共有を見直す必要があると考える。
		③-1 ゴミゼロキャンペーンの実施 【ホームルーム活動内 3回以上】 ③-2 バス停清掃の実施 【各クラス年間 2回以上】 ③-3 アドプト事業によるクリーン作戦の実施 【各クラス年間 2回以上】 ③-4 鮎喰川の生物環境調査の実施 【年間 2回以上】	③-1 ゴミゼロキャンペーンの実施 【1学期 3回実施】 ③-2 バス停清掃の実施 【各クラス年間 4回実施】 ③-3 アドプト事業によるクリーン作戦の実施 【各クラス年間 3回実施】 ③-4 鮎喰川の生物環境調査の実施 【夏季休業中 1回実施】	B			
		④-1 農薬使用受払簿の記入 【記帳率 80%以上】 ④-2 農薬及び化学肥料の使用量の削減 【昨年度使用量: 10%減】	④-1 農薬使用簿の記入はこまめにできた。 【記帳率 80%以上】 ④-2 昨年度の使用量とほぼ同じである。	B			
		活動計画 ①-1 農業クラブのプロジェクト学習を実施する。 ①-2 農業クラブ県予選出場並びに産業教育展でのパネル展示, 課題研究報告会の実施による活性化を推進する。 ①-3 農業クラブの活動報告会を実施するなど活動の活性化を図る。	活動計画の実施状況 ①-1 農業クラブプロジェクト発表(Ⅱ類・Ⅲ類)出場【県大会 優秀賞】 ①-2 農業クラブ県予選会に意見発表・プロジェクト発表, 平板測量競技に, それぞれ出場した。また, 産業教育展でのパネル展示を実施し, 課題研究報告会も実施できた。 ①-3 農業クラブの活動報告会は7月に実施した。	・本年度, 「とくしま安 ² 農産物GAP認証制度」の基本認定に挑戦し, 高評価を得た。栽培品目はスダチで今後の収穫時の対象ロット管理の対応を指摘された。			
		②-1 農業クラブの各種競技において, 四国大会並びに全国大会出場を目指す。 ②-2 地域連携を積極的に行い, 本校の特色ある取り組みとして広報する。 ②-3 部活動において各競技公式大会に参加する。	②-1 四国大会は出場できなかった。全国大会は農業鑑定競技会で造園土木科1名, 生活科1名参加するが, 入賞できなかった。 ②-2 つなぐ公社を中心に地域連携プログラムが実施された。 ③-3 本年度は高校総体体育大会のみの参加となった。				
		③-1 有機農法やバイオエネルギー等で環境に優しい取り組みを推進する。 ③-2 栽培等において化学肥料使用度を削減する。	③-1 有機農法では農薬削減に推進できたが, バイオエネルギー等での省エネルギー対策は取り組めなかった。 ③-2 化学肥料使用度は減らすことができなかった。				

【備考】評価における「評定」の基準】 A: 100%達成 B: 80%以上達成 C: 80%未満~70%以上達成 D: 70%未満~60%以上達成 E: 60%未満達成

平成28年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方法	
		評価指標と活動計画	評価			
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) (1)自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (2)学校版環境ISO認定校として実践を推進する。 (3)食の安全・安心の観点からの教育を推進する。 (下位組織レベル) ①安全教育の充実 ①効果的な防災教育の計画・実践 ①有効適切な防災避難訓練の企画と展開 ①適切な保健管理 ①自己の健康管理能力の育成 ①適切な健康相談活動 ②節電・節水・ゴミの分別 ②校内の美化 ②正しい農薬散布の徹底と事故防止 ③食育の実施	評価指標 ①-1 帰宅困難時に備え備蓄計画を継続する。 【非常時備蓄数：前年比 10%増】 ①-2 災害に対する避難訓練の実施 【年間 3回以上】 ①-3 防災クラブの活動 【地域・保護者連携による活動1回以上】 ①-4 避難消火訓練の実施 【地元消防署との合同訓練 1回以上】	評価指標の達成度 ①-1 備蓄計画は昨年度並み以上に継続できた。特に、マキの備蓄は備蓄燃料として効果が期待される。 【現在備蓄 昨年度の5%増】 ①-2 災害に対する避難訓練 【年間 4回実施】 ①-3 防災クラブ活動 【起震車体験・火災用煙体験等の防災教育活動：1回】 ①-4 避難消火訓練の実施 【地元消防署との合同訓練 1回】	評定 A 総合評価 B	I)生徒自身に地域防災の担い手としての自覚を持った取組や地域連携活動の推進を図ってほしい。 ①学校も今後、避難所としての対応を十分検討し、「学校として何ができるのか」「何をすればよいのか」等を生徒にもしっかりと考えさせる中で模擬訓練等の実施並びに次年度は周辺地域と一体となった防災訓練の実施を検討したい。 II)他校では教室の環境整備面で充実しているが、本校では今後、改善する計画はあるのか。 ①本校においても本年度、予算配当をお願いし各教室に2台の扇風機を常設することができ、少なからず快適な学習空間の保持を図ることができた。	○地元消防隊との連携で計画的に避難訓練や防災訓練が実施できたが、雨天時の防災プログラムを考える必要がある。今後、地域と連携した防災訓練を計画していく。 ○環境プロジェクトは地元、NPO法人グリーンバレーと連携を図り公共施設の整備に努めた。今後も積極的に奉仕活動を推進していく。 ○スタチで安 ² GAP認証を取得できるように、今後も農場整備に努める。また、生徒にもGAPの取組について学習させていきたい。
		②-1 地元NPOグリーンバレーと協力し学校周辺の美化に努める。 【年間活動：6回以上】 ②-2 教職員の地域の清掃活動への積極的な参加を促す。 【年間 3回以上】	②-1 月1回各学年を割り振り実施している。 【各クラス年間 3回実施】 ②-2 バス停清掃など教職員も積極的に地域の清掃活動に参加した。 【各クラス年間 4回実施】	評定 A		
		③-1 安全・安心な農業生産物を提供する。 【生産者表示の徹底 100%】 ③-2 スタチの安 ² GAP申請に関する教員研修の実施 【教員研修会：年間 1回以上】 ③-3 生徒への安全・安心な食の意識調査を実施	③-1 加工品に表示野菜や草花苗等には表示ができていない。 ③-2 申請に向けての準備は進めている。【研修：3回実施】 ③-3 今年度は実施していない。	評定 C		
		活動計画 ①-1 台風時期・積雪時期に事前備蓄点検を実施 ①-2 学校防災計画に準じた避難訓練を実施、計画の不備が発見次第、早急に改善する。 ①-3 体育祭で地域・保護者・神農クラブが連携し炊きだし体験を実施する。 ①-4 AEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 台風時期は問題なく点検できたが、今後は積雪時期に備えた備蓄点検を行っていく。 ①-2 随時教職員の緊急連絡体制を改善することができた。 ①-3 今年度は2回、教職員と炊き出しを実施した。 ①-4 7月にAEDを使った心肺蘇生の研修を生徒・教職員に実施した。	総合評価 B (所見) ・昨年度、防災クラブを「神農クラブ」のメンバーで立ち上げ、活動をしている。今年度も「守るぞ！地域防災推進事業」を継続しており、防災研修にも積極的に参加し、防災意識を高めている。また、本年度は高校生防災士に2名が合格し、資格試験にも挑戦している。 ・アドプト・ザ・ハイウェイなど積極的に道路整備している。 ・道の駅の販売やイベントでの生産表示は、シールを貼り生産者の表示が分かるように工夫している。 ・スタチによる安 ² GAP申請に向けて、農場の整備や農薬管理の徹底などの計画をすすめていく。		
②-1 各教室に節電に係わる啓発チラシを掲示、節電に心がける。 ②-2 昨年度の月々水道料金3割減に努め節水を推進する。 ②-3 農薬散布の使用割合を年間を通して減らしていく。	②-1 各学年の教室には掲示できているが特別教室には掲示できていない。 ②-2 夏場の水不足が大きく影響し、昨年度並みの水道料が発生した。 ②-3 スタチ以外の農産物には農薬を使用していない。	総合評価 B				
③-1 地元特産スタチを使用した6次産業化に取り組む。	③-1 スタチを使った料理を生活科の課題研究で研究中である。	総合評価 B				

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成